

§ 1. 活動方針

昭和 60 年度、61 年度、62 年度に引続き日常携わっている設計作業の中で問題となった事例を、- 会合 - テーマの原則のもとに、各種基準の比較を踏まえながら検討討議を行い、鋼橋技術に従事する一線の技術者に情報交換の場を与えることとする。

また昭和 61 年度から鋼橋の設計に寄与する具体的な成果を上げるべく具体的活動(隅角部の設計法)が完了した。

§ 2 各会合記録

第 21 回 昭和 62 年 5 月 11 日 場所: 石川島播磨重工業(株)

- 内容
1. 横梁構造における問題点について
 2. 偏平多室箱桁における横リブと主桁ウェブの連結部について

第 22 回 昭和 63 年 7 月 20 日 場所: 早稲田大学

- 内容
1. 関西での合成桁の限界状態設計法の考え方について

第 23 回 昭和 63 年 9 月 21 日 場所: 早稲田大学

- 内容
1. 支持桁の不等沈下を考慮した床版厚の算出

第24回 昭和63年9月21日 場所:ホテル陽光赤坂

内容 1. 応力解析による設計法について

第25回 平成元年1月25日 場所:三菱重工業(株)

内容 1. 拡幅桁の設計法について

第26回 平成元年3月15日 場所:武蔵工業大学

内容 1. 高力ボルト引張接合長締め形式について